

令和2年度 放課後なかよし教室

資料2

1 児童の利用

年 度	令和元年度(12月現在)	令和2年度(見込み)
登録人数	3,439人	3,484人
1日平均 利用人数	市内全体で1日あたり1,145人	市内全体で1日あたり1,168人
	1校あたり30.9人	1校あたり31.6人

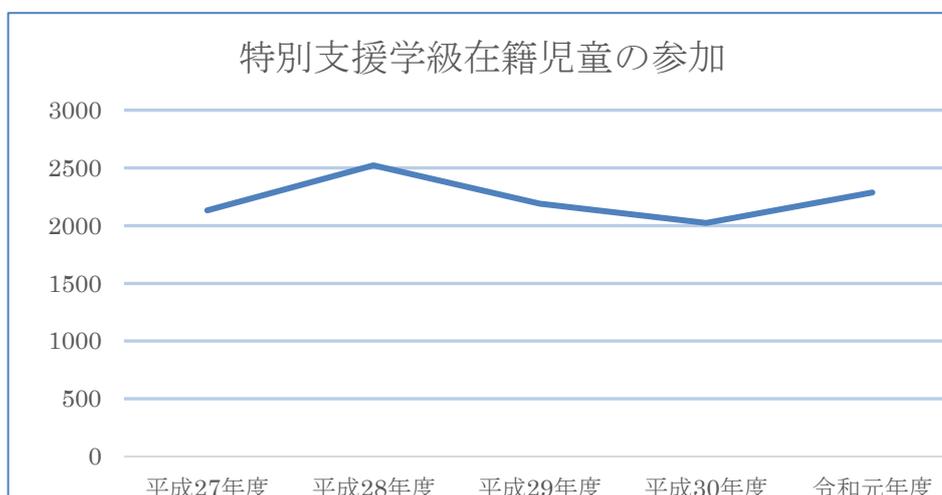
2 より多くの児童を受け入れるための取り組み(案)

- 放課後なかよし教室では定員がないため、地区によって日々の利用人数が50人を超える教室がある一方で、日によって利用人数が10人以下となる教室もあります。現在1人体制で運営している教室はありませんが、利用児童数が極端に少ない教室については、スタッフが1人不在となる場合に緊急時に他校スタッフやコーディネーター、学校教育課職員が駆けつけるなどの体制措置を講じた上で、運営指導者1人で運営してもらい、利用人数が多い学校にスタッフをより多く配置できるようにします。
- 東部地区、西部地区ごとに応援スタッフ派遣のために加配する教室を2か所ずつ設置し、緊急時や急なスタッフの休みなどに他校に迅速に配置対応できるようにしていきます。
- 現場の運営状況を把握するため、放課後なかよし教室コーディネーターを引き続き配置し、各教室を巡回し、運営指導者や協力者に助言、相談を実施していきます。
- 放課後なかよし教室のほとんどが空調機の設置されていない教室で開設していたため、これまで夏場の暑さ対策が課題でした。来年度は、多くの教室がエアコン付きの教室を通級指導教室と併用利用することになります。通級教

室利用児童と放課後なかよし教室利用児童がともに夏場に涼しい部屋で過ごせるよう学校と連携していきます。

3 今後の課題

- 放課後なかよし教室を市内全小学校で継続して運営していくためには、安定したスタッフの人員確保が課題です。教室スタッフの7割以上が50歳以上です。今年度は、全小中学校に募集チラシを配付して登録者の呼びかけをしました。60歳以上の元気なシニア世代にも範囲を広げるなどして、引き続き広報などでも求人を呼びかけていきます。
- 特別支援学級に在籍する児童や特別な配慮を必要とする児童で、放課後にデイサービスを利用するために下校後、一時的に放課後なかよし教室で過ごす児童の登録が増えています。保護者に代わってデイサービス事業者が教室にお迎えに来る現状から、デイサービスとの情報連携が必要になってきています。今年度、デイサービスの利用決定を行う障がい福祉課職員と学校教育課職員が情報交換しましたが、引き続き協議をしていきます。



- 放課後なかよし教室利用者の約半数は、子どもの家（学童保育）に入れない就労世帯という現状があり、利用者の視点から見ると、子どもの家との区別がつきにくくなっています。異年齢交流や多様な体験活動など、放課後なかよし教室の良さを残しながら地域の実情に応じて居場所のニーズにこたえていく必要があります。